

東北の 2 大オーケストラ 山形交響楽団&仙台フィルハーモニー管弦楽団

東北には、2つのプロのオーケストラがあります。山形交響楽団（「山響」）と仙台フィルハーモニー管弦楽団（「仙台フィル」）です。

山響は、山形県山形市を本拠とするオーケストラです。創立名誉指揮者である村川千秋の「ふるさとの山形にオーケストラを」の情熱の下、1972年1月に発足しました。山形新聞グループの他、県下有力企業の支援を得て、演奏レベルの高さでは全国的にも定評がある楽団に成長しました

2016年4月、前年秋に策定した事業計画「ビジョン 2016 - 2018」を始動。収益の柱となる依頼演奏会を増やすため、県内だけではなく、東北地方の他県のホールなどを活動拠点とするフランチャイズ展開を目指すことがうたわれたほか、将来的には楽団員の増員も検討するとの指針も盛り込みました。また同年5月には、楽団員の士気向上を狙いに3年ぶりに賞与が支払われることが決定しました。（以上『ウィキペディア (Wikipedia)』参照）

仙台フィルの前身は、宮城フィルハーモニー管弦楽団（「宮城フィル」）です。宮城フィルは1973年（昭和48年）3月に発足しました。この時に尽力したのが地元出身者で作曲家の片岡良和です。片岡がバレエの発表会にオーケストラを使いたいと考えメンバーを募集したところ30人ほどが集まりました。これらの演奏家が宮城フィルの母体となりました。その中にはプロもいましたがアマチュアがほとんどでした。また、片岡はオーケストラ創設にあたり、札幌交響楽団の事務局に助言を求めたといえます。宮城フィル発足後、片岡は常任指揮者となりました。

1983年（昭和58年）には片岡の要請で芥川也寸志が音楽総監督に就き、また靱山和明が常任指揮者に、小林研一郎が首席客演指揮者となって、複数指導者による体制となりました。1989（平成元年）4月に、仙台市が政令指定都市に移行したのにあわせて、宮城フィルハーモニー管弦楽団は仙台フィルハーモニー管弦楽団へ名を変えました。

1995年（平成7年）、仙台市で第2回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクールが開催されると、仙台フィルはそのホストオーケストラとなりました。2000年（平成12年）には、初のヨーロッパ公演が実現し、楽団はオーストリアのリート、リンツ、ウィーン、フィラッハと、イタリアのローマを巡りました。2001年（平成13年）からは3年毎に仙台市で仙台国際音楽コンクールが開催されることになりました。このコンクールの本選では協奏曲が課題曲であり、仙台フィルはコンクールの出場者とこれを共演することになりました。2009年（平成21年）公開の映画『劔岳 点の記』では、仙台フィルが音楽の演奏を担当しました。（以上『ウィキペディア (Wikipedia)』参照）

クラシック音楽のオーケストラは、赤字との戦いでした。山響も仙台フィルも地方のオーケストラとして、本拠地だけでなく、直接地方各地に出向いて演奏したり、学校を訪問したりしてのコンサートに力を注いでいます。



【演奏終演後に観客を見送る 山形交響楽団のメンバー（山形市山形テルサ）】（2024年6月15日撮影）



【演奏終演後に観客を見送る 仙台フィルハーモニー管弦楽団のメンバー（仙台市日立システムズホール仙台）】（2024年6月22日撮影）

◇是非、福島へ来てください。被災地を案内します。

携帯：090-5300-4664 メールアドレス p-mia08@outlook.jp